

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日:2022年9月12日

所属学部／研究科・学科／専攻	情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学デービス校 現地言語: University of California, Davis
留学期間	2022年6月～2022年9月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年9月12日
明治大学卒業予定年	2024年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期: 2学期: 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	38247人(2022年9月4日時点)
創立年	1908年

留学費用項目	現地通貨 (US ドル)	円	備考
授業料	\$7800	1053000円	支払時期は4月序盤だったので、実際はもう少し安く、\$1=125円程度だった。これで計算すると975000円。
宿舍費	\$2728	368415円	ホームステイ。現金でステイ先の方に月初めに支払い。
食費	約\$252	34020円	昼食を\$3で計算。3*7*4*3=252
図書費	0	円	
学用品費	0	円	
携帯・インターネット費	0	円	
現地交通費	0	円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	円	
被服費	0	円	
医療費	0	円	
保険費		39650円	形態:明大サポート
渡航旅費		205330円	5月に購入したときの値段。円安と一緒に費用が増えるので注意。
ビザ申請費	\$510	68850円	ビザ申請費用=\$160 SEVIS申請費用=\$350 5月に支払い。
雑費	\$30	40500円	
その他	\$300	13500円	Housing survice fees
その他	\$450	60750円	Equitable access SS 二回分=\$75*2 Picking up service=\$165 Bike rental service=\$135 現地到着後に支払い。
合計	\$12070	1,629,450円	計算しやすいように、\$1=135円で統一しました。支払時期によって為替相場額が変わっていたので、ここに書かれた金額は参考です。

渡航関連

渡航経路
往路 出発地:成田空港 目的地:サンフランシスコ空港 経由地:なし 復路 出発地:サンフランシスコ空港 目的地:成田空港 経由地:なし
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社:JAL 料金:205330 円
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:JAL) <input type="checkbox"/> その他()

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3)共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input checked="" type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
3 月頃に、協定留学認定後にデビス校側から紹介されたサイトにあった google form(自身が希望する生活様式を記入するフォーム)に回答した。その後、担当者の一人とメールを通じて支払いをした。
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
私のホームステイ先はアパートの一室だったが、個室はだいたい六畳ほどの広さで、勉強机やベッド、鏡や収納スペースがそろっていたので大満足だった。聞いた話だと、一軒家でも個室が狭かったり、勉強するための明かりがなかったりするそうなのですが、住居の中身について詳しい情報を到着前に知ることは難しいので、覚悟の準備はしておくとういかもしれない。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等:)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?
現地の危険地域情報は、到着後すぐに行われたオリエンテーションや、学生に向けてキャンパス内・キャンパス近隣で起きた事件を発信するメールなどから収集した。利用数の多さから、自転車の盗難が頻発する地域だったので、防犯対策として自転車をオブジェクトと一緒に施錠した。具体的には、U 字の金具を使い、U の頭の部分にふたをするための I 字の金具をロックした。なお、これらの鍵や金具は、自転車を借りるときに一緒についてきた。これのおかげか、実際に盗難に遭うことはなかった。
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
通信サービスは、ソフトバンクのアメリカ放題をつかったが、接続に困ることは初めの数日しかなかった。最初は 4G にうまくつながらず、大学キャンパス内で学生が使える Wifi やホストファミリーが使用を許可してくださった Wifi を使っていたが、到着から 1 週間もしないうちに直った。したがって、現地での携帯電話やインターネットの利用にはほぼ全く困らなかった。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
留学中は、渡航前に作ったデビットカードを使ってお金を使用した。
6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。
既にいくつもの報告書でいわれている通り、お気に入りの化粧品などはもっていったほうがいいのかもわからない。
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)
渡航前の 4 月ごろにクレジットカードで支払った。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？ upper division に属する授業の大半では、履修前にテストを受けて、十分な知識を持つことを証明する必要があった。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to the sociology of health and illness	健康と病気についての社会学入門
科目設置学部・研究科	SOC(Sociology)
履修期間	2022 年 6 月 日から 7 月 日まで
単位数	4 units
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週に三回対面講義、一回 Zoom でオンライン講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 4 回
担当教授	Elyssa Fogleman
授業内容	「Introduction to the sociology of health and illness」では、社会学の視点に立ち、社会的・経済的に弱い立場にいる人々が国内でどの程度苦しんでいるのか、具体的にどんな種類の病気にかかりやすいかなどを学ぶ。具体的には、読んできた論文の主張や使用された概念などの説明や、現実の社会と知識をつなげるために講師が用意した質問に答えるために、グループで話し合っって意見を共有・検討・授業内容の確認をするのが授業の主な流れだった。
試験・課題など	対面で行う試験はなかった。課題としては、授業で使う論文や新聞記事を予習したり、次の一週間で読む論文のうち一つについての要約や重要概念、具体的な例や質問を書いて週初めに提出したり、期末レポートの提出があった。
感想を自由記入	学べば学ぶほど、日本の保険や日本国民の健康状態のどこが特徴的なのか知りたくなっていった。授業内容は主にアメリカの保険制度や寿命の推移、地域ごとの健康状態の差などについて知ったが、アメリカの保険についていくばくか知識を仕入れたことで、アメリカのことについてはなくむしろ日本における健康や平均寿命、国内の保険制度や福利厚生、年金を支える労働人口などに興味がわく感覚を何回も味わった。その意味では、私の関心が日本の方を向いていることに気づかせてくれたありがたい授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Contemporary Experiences of Asian Americans in the Era of COVID-19	コロナの時代に生きるアジア系アメリカ人が最近体験したこと
科目設置学部・研究科	ASA(Asian American Studies)
履修期間	2022年8月 日から9月8日
単位数	4 units
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	一週間に二回対面講義、一回スクリーンプリントの作成のための作業(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が3回
担当教授	Caroline Kieu Linh Valverde
授業内容	アジア系アメリカ人たちが困っていることについて理解することが、この授業の大きな目的だった。教育機関や職場などで生まれる悩みや、第二次世界大戦後から今に至る過程を見つ、彼らアジア系アメリカ人に固有の苦しみがどんなものなのか、どの程度深刻な課題なのかを精神の健康や収入、キャリア形成の難しさなどに注目して理解していった。学生デモについて語る中で「軍事拡張」や「新自由主義」について説明を加えたり、戦後に起こされた主要な運動について概観する際に、同時多発テロによるナショナリズムの勃興と民族意識の高まりから生まれた「ピュアじゃないアメリカ人への風当たりが強くなった流行」を紹介したりするなどして、いろんな種類の鍵概念を使ってアジア系アメリカ人が直面している問題の複雑さがにじみ出ていた授業だった。
試験・課題など	課題としては、毎授業後に振り返りのコメントを当日中に提出すること、「Fight the Tower」というアジア系アメリカ人女性が学問の世界で受けた不平等について当事者たちが合同で出版した本の批判を、各章に分けて毎週提出すること、そして、アジア系アメリカ人が困っていることについて考えるべく、隣町にある製作所で絵を作って「行動を起こす」ということを経験し、そして作成した絵のテーマや込められた意味、制作過程などを最終日の授業でプレゼンをグループごとに行った。 試験としては、対面での筆記試験はなかった。
感想を自由記入	マイノリティでない人はマイノリティについてどう考えることができるのか考えさせられた。個人的には、社会の中の人々や集団、制度のなかに存在する「違い」についてスポットライトを当てた授業として、とても考えさせられることが多かった。主に扱った対象はアジア系アメリカ人の苦勞についてでしたが、それらに関連する概念や歴史も触れつつ授業が行われたことで、社会問題の複雑性が協調されているように感じた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Sexualities	セクシュアリティ入門
科目設置学部・研究科	WMS(Women Studies)
履修期間	2022年8月 日から9月8日
単位数	4 units
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週に一回対面講義、二回 Zoom でオンライン講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に130分が3回
担当教授	Aaron Benedetti
授業内容	sex, gender, sexuality をキーワードとして、近現代の人々が性的嗜好を同研究してきたのか、資本主義が公私の領域を分離したことで性についてどんな意味づけがされたのか、ポルノグラフィそのものが悪なのか、それともそれを促進している社会の構造に問題があるのかなど、性交渉や性的アイデンティティ等に関わる疑問への結論を探す授業だった。
試験・課題など	対面の試験はなく、中間・期末レポートは期日までにポータルにて提出する形だった。課題については、授業で扱う論文や映像を授業前に批判する(筆者の立場・筆者が賛成している研究・その研究内で証拠として使われているもの・その研究の主張を正当化するために、どのように証拠が使われているかという論理・その研究はなにが問題だと考えているのかを理解することが講師から勧められた)ことや、各週のテーマに沿って、授業で扱った研究の一つを選んで200字から400字で批判すること、そして1000字以上の中間レポートと1500字以上の期末レポートが課題として出されていた。
感想を自由記入	個人的に驚いたのは、セクシュアリティ(ざっくりと広義でいうならば性的嗜好と訳されると思う)の話の中で「資本主義」がキーワードをなしていたこと。なぜなら、セクシュアリティは今でこそ「プライベートなものであり、公に出すことは珍しい。時には公で性的嗜好それ自体について議論することは不適切だ」という感覚があると違って差し支えなく、私個人の感覚もそれに追っていたので、なぜ資本主義という社会全体の変化が、家や家族と同様に私的な存在である性的嗜好に影響を与えたのかとても不思議だった。ところが、授業を受けるうちに、まず私的・公的という分類が資本主義の確立前にはそこまで意識されていなかったことや、資本主義の出現によって集団の一員としてのアイデンティティに加えて、個人一人ひとりがオリジナルのアイデンティティをもつようになったことを知った。この経験から、ポストモダンとかハイモダンとか言われている最近の日本に生きる人間である私が、現代の視点だけで過去の出来事を解釈することは適切ではない場合が往々にしてあることを実感した。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入して

ください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	4月 入学
	8月～9月	8月 TOEFL 対策や留学後の英語運用のために、エンデラン短期留学プログラムにオンラインで参加。
	10月～12月	10～12月 出願の条件を満たすために英語の練習をする。大学側が提供する TOEFL 対策のための授業に参加したりした。出願前に TOEFL を受けた。
留学開始年	1月～3月	1月 選考結果公開。その後、成績表の提出等の手続きを進めた。
	4月～7月	4月 ビザ申請、滞在先の予約。5月 ビザ取得、航空券入手。6月 陰性証明確保、滞在先の決定。7月 終盤で SS1 が終わり、SS2 開始。
	8月～9月	対面で行う試験はなかった。9月 帰国
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留學生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

初めに、この留学先を選んだ理由を書きます。まず、アメリカを選んだ理由としては、「ポリコレ」という言葉になじみのある国であることや、多様性という広い概念が声高に叫ばれている国ということを知り、「今起きていることを知る」という情コミの目標を自分なりにどう達成するのか考えるのにぴったりではないかと思ったからです。

次に、カリフォルニア大学を選んだ理由は、三か月間の留学という、私にとってちょうどよい長さの留学を受け入れていたからです。これ以上長いと自分の集中力が続かないと思いました。後付けになりますが、この期間で正解だったと感じます。

そして、デービス校を選んだ理由は、パークレー・ロサンゼルス校と比べて、治安が良いと聞いたからです。実際、ホームステイ先の方に伺うと「デービスでは夜に出歩くことができるし、天体観測もできる。」とおっしゃっていましたし、先に来米していた日本人学生の方も、「他校の周りでは薬物を使用する人を見たが、デービスではまだ見ていない」と語られていました。他にも、留学報告書が他校と比べて少なかったり、大六野学長が数年前に作成されたカリフォルニア大学についてのチラシを見て、カリフォルニア大学のチラシパークレー校の高い競争性やロサンゼルス校の都市らしさに恐怖する一方で、デービス校のマイペースさに惹かれたりしたことも理由です。

次に、恐縮ですが、留学を検討している方に少しでも有益な情報を残すために、「留学前に私が知っておきたかったこと」について書き綴りたいと思います。

まず、現地で使われる言語についてですが、留学前の準備に悩んだらとりあえずリスニングをするとよいと思います。というのも、私の場合、英語はホームステイ先や大学内のカフェ、そして授業で聞くものだったので、数秒間から最長 150 分間の長さの英語を聞く必要がありました。だからこそ、リスニングの練習はしてもしすぎることはないように感じます。

次に、学習時間についてです。平日は帰宅前に課題を済ませ、夜 10 時には床に就けました。休日は、授業のために使う時間は最長でも一日あれば足りました。留学前に確認した留学報告書では、睡眠時間を削る必要があったと書かれているものもあって驚きました。何が言いたいのかというと、留学中に授業のために費やす学習時間は、個人の授業内容や目標などによってばらつきがあるということです。

最後に、日本人同士で話す時間を作る意味について考えたことを書きます。留学中は、約五十人の日本から来た学生を見ました。また、同じホームステイ先にいた別室に住む日本人留学生の人はほぼ毎日日本語で誰かと電話していましたし、キャンパス内でも日本人同士で盛り上がっていた集団もほぼ毎日見ました。したがって、非日本語圏だからといって日本語で話すことを極端に避けたり、日本人同士で集まることに拒否反応を起こしたりする必要はないように思えました。特に、精神的な支えとして日本という共同体を利用することは有効であり、逃げの一手ではないでしょう。